

陸前高田市議会会派

新星会

発行
陸前高田市議会会派「新星会」

発行日
平成16年10月1日

第1号

発行責任者
松野榮雄



今年は猛暑で賑わった「高田松原」。陸前高田の将来もこのようにしたいと考えます。

会報「新星会」

発行に当たって

本年四月一日、志を同じくするものの五名をもって市議会に新しい会派「新星会」を立ち上げました。

昨年の市議会議員選挙から様々な形で連携してきた五名が中里市長とは一線を画して、その政策に対し市の発展・市民生活の向上を基本として、「是々非々」で望むことを議員活動の基本とすることといたしました。年代、職種、地域など様々な異なる者が相互に補完しあいながらお互いを高め、市政発展に少しでも寄与することを目的として新会派を結成した次第です。

会派の基本として、市民とともにまちづくりに取り組むことといたします。そのひとつの方法として、私たちの活動や考え方を広く市民の皆さんに知っていただくことが大切であり、皆さんから多くの声を頂戴することが最も重要と考え、この会報を発行することといたしました。

今後、様々な形で皆様と一緒に歩んで参りたいと考えておりますことから、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。会報創刊のご挨拶といたします。

新星会会長 松野榮雄



6月定例会報告

6月定例会では、福田利喜議員が一般質問を行い、陸前高田市総合計画後期計画の策定への中里市長の基本姿勢や、行財政改革プログラム作成等について質しました。

質問趣旨

行財政改革プログラムの作成状況について

4月の全員協議会で、行財政改革プログラムの骨子が説明され、8月に成案を完成する予定となっているが、その作業の進捗状況はどうか。

- 1 改革プログラムは12の重点施策を掲げているが、その内容は「人件費の抑制」から、「使用料、手数料の適正化」まで幅広いものとなっており、見直し検討には大きな労力と時間が必要と考えるが、現在の進捗状況はどうか。
- 2 行財政基盤確立のための目標数値として各年2億円の収支改善額を示しているが、重点施策を実行するための推進財源の確保も必要と考えるが、行財政改革プログラムへの明記は考えていないか。
- 3 その内容は、市民が求める行政ニーズを実現するための「行財政の確立」を目指すものであることは基本であるが、実行する職員や、協同参画を求められる市民のモチベーションが低くなるようなものではないと考えるがどうか。

観光・交流の振興について

3月定例会で行われた、中里市長の施政方針演述の中でも、産業の振興分野で都市との交流や観光産業の振興をうたわれているが、その具体策と新たな振興策について伺います。

- 1 産業振興、交流基点、地域振興の拠点として市内には様々な施設があるがこの施設の有機的な連携が必要と考えるが、交通アクセスや施設マップなど訪れる人への情報提供等が必要と考えるがどうか。
- 2 施設の運営については、公設公営、公設民間委託など様々な方法がとられているが、市民会館や図書館などと違った民間施設との競合する実態を踏まえた管理方法が必要と考えるがどうか。
- 3 当市の大きな観光資源である高田松原を夏の季節だけではなく、春や秋といったシーズンにも訪れてもらえ

るような方策が必要と考えるがどうか。

陸前高田市総合計画後期計画の策定について

18年度から具体的な事業が開始される陸前高田市総合計画後期計画について、本年度から策定作業に入るとのことだが、その具体的手法について伺います。

- 1 10年にわたっての基本構想を前期・後期に分けて具体的に実施する計画であるが、地方の行財政を取り巻く大きな環境の変化があったが、基本構想の見直しは行わないのか。
- 2 後期計画策定に当たっての、中里市長が指示される計画の基本方針と、計画スキームはどのようなものか。
- 3 公募をはじめ市民参加による後期計画の策定を表明しているが、策定へ向けた具体的な作業はどのように考えているのか。



新たな観光拠点の黒崎仙峡温泉



お風呂からは太平洋が



少し手狭な休憩室



休憩室からも太平洋が目の前に

9月定例会報告

9月10日から開催された平成16年第3回定例会（9月定例会）は、12人の議員が一般質問に立ちました。新星会からは、佐藤信一議員と西條 廣議員がそれぞれ市政課題を中里市長に質しました。



佐藤信一議員

第一次産業の振興について

1 総合営農指導センターでの「ふれあい農園」を通して、「体験営農講座」を開設する考えはないか。

- 2 中山間地域等直接支払制度の現状はどうか。また、今後の継続についてどのように考えているのか。
- 3 集落水田農業ビジョンに基づく「産地づくり対策」をどのように進めるのか。

子供たちの健全育成を図る取組について

- 1 「校内暴力やいじめが増加に転じた」との報道がなされているが、市内の小中学校ではどのような状況になっているのか。
- 2 市内数箇所で開催されている学童保育に対して、どのような支援を行っているのか。
- 3 地域ぐるみで取り組む活動とともに、各地区コミュニティセンターに児童館等の施設整備が必要と思うがどうか。

市民参加のまちづくりについて

- 1 今後の各種イベント等に対する補助は、どのようにあるべきと考えているのか。
- 2 起業化への取組に対し、今後どのように支援していくのか。
- 3 都市の人々との交流を通して「高田型ツーリズム」がなされているが、今後どのように助成し促進していくべきと考えているのか。

9月議会補正予算から

◎今泉保育所建設が2カ年の継続へ。

国の予算事情から今年度と来年度の2カ年を通しての建設となりました。

当初予算では、今年度建設をし来年3月の修了式は新たな園舎でと計画されていたものです。

◎災害復旧に1,099万円。

市内の災害復旧土木事業として、市内の水路・市道復旧をはじめ、復旧工事予算が付きましました。



西條 廣議員

広域行政について

1 「当面自立」ということであったが、「当面」の期間はもう過ぎたのではないかと思われるが、単独市としての生き残り策はあるのか。

- 2 各地で「気仙は一つ」と言われているが、市長の耳には届いているのか。

行財政改革プログラムについて

- 1 職員給与のカットなどが大きな柱となっているが、職員組合との合意が出来ているのか。また、その見直しはどうか。
- 2 行財政改革プログラムの見直しもあるのか。当面見直しが予測される部分はどこか。

史跡中沢浜貝塚保存整備事業について

- 1 国県の財政状況が厳しく、本年度においては県の上乗せ補助も無くなるなど、事業の進捗への影響はどうか。史跡区域内に残る世帯もまだある現状であり、家屋の新築・改築等について支障がでているが、事業完了年度に変更はあるのか。
- 2 今後の史跡公園等の整備計画と、地元住民への計画内容の説明の予定はどうか。



今年も700名を越す選手が参加したサイクルロードレース大会

の先にあるものは

日が進むべき方向について、行財政改革プログラムへの

交換を行いました。

新星会会報創刊記念座談会



松野 新星会会報創刊記念として様々な市政課題について会員相互の考え方をそれぞれに意見交換する場として、このような座談会を企画してみました。本日は私が進行役ということで進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず、市当局が発表された「行財政改革プログラム案」についてのどのような感想をお持ちでしょうか、西條さんいかがでしょうか。

西條 一言で言って「前に進む気持ちがあるのか。」と感じています。なぜかという点、全てにおいて縮小・縮小という感じがしてなりません。確かに現在の経済状況

や、本市の財政状況を考えると、かつてのようなイケイケドンドンのような市政運営は出来ません。限られた財源を有効的に且つ効率的に運営しなければならぬ状況ですから、見直しを行い切り詰めるべきところはきちんと言直しを行い、適正に遂行すること

は最も重要なことだと考えます。ただ、縮小だけではなく、税収を増やすための施策もあわせて

必要ではないか、今回のプログラムにはその点が欠けているのではないかと感じています。

松野 福田さんは予てから行財政問題に取り組んできましたが、今回のプログラムの内容についていかがでしょうか。

福田 私は大変苦労して事務方の職員が作り上げたと思っています。その点についてはご苦労だったと思いますが、このプログラムの先には何かあるのかといったイメージというか、中里市長のメッセージ



ジというものが欠けているように感じています。

たとえば、四年間でこのような施策を実行するためにはこれだけの財源が必要となります。実現するために市民の皆さん、職員の皆さん苦労をかけますが一緒に頑張りますという点が見られないことです。市民から要望の多い生活道の改良舗装をこれだけ進めるため必要だとか、市長が進める生活応援（例えば保育料の市独自の一部無料化など）を積極的に進め、市民が生活しやすい環境を行うためとかいったもの。我慢をした後には何が待っているといった点の明示が必要だと思っています。

行財政改革プログラム

地域産業と食育、産業の振興と福祉など、陸前高田
考え方を通して高田の目指すべき方向について

松野会長をコーディネーターに意見交換



松野 二人の会員から今回の行財政改革プログラムについての考え方を伺いましたが、ここで若干視点を変えて産業振興という観点で伺ってみました。佐藤さんはこれまでヤーコンをはじめ地域の野菜作りをとおして様々な活動を行っておりますが、議員として地場産業、特に農業を通しての陸前高田の明日をどのようにすべきとお考えでしょうか。

佐藤 私は議会へ来て教育民生常任委員会へ所属させていただいて一年が過ぎました。その点から考



えますと、教育と産業の振興というのは切り離せないものだと思

松野 最後にりましたが小松さんには議長という立場から取り組んでいる議会の活性化についてお願いします。

小松 会派の一会員として参加しておりますが。新星会の皆さんにもお願いをしておりますが、地方分権社会、自立が求められている地方自治体において、地方議会がどうあるべきか、陸前高田市議会がどうあるべきかを皆さんに議論していただきたいと考えております。現在、市政調査会や広域課題調査研究会にて様々な議論をいただいております。



会派員紹介

昨年4月の市議会議員選挙後、一年間様々な形で活動して来ましたが、政治に取り組む姿勢や市政に対する考え方が多く共感できる同志として、5人で新会派を結成することとなりました。

5人が5人とも様々な経験と職種、年代の違うメンバーが集まりました。これらの経験や知識をひとつの力として市政の発展へ尽力したいと考えています。



福田 利喜

会派幹事長
総務常任委員会副委員長
議会運営委員会副委員長



西條 廣

会派副会長
市政調査会副会長
教育民生常任委員
議会運営委員
議会だより編集委員



松野 榮雄

会派会長
産業建設常任委員
議会運営委員



小松 眞

会派顧問
議長
総務常任委員



佐藤 信一

会派事務局長
教育民生常任委員会副委員長
議会だより編集委員

市議会の活性化について

我々「新星会」では、小松議長より各会派に提起があった市議会の活性化については、次のような提言を行いました。

◎市議会において検討すべきと考える事項

1 適正な議員定数について

人口規模、地理・地域的要件、市民意見の反映のあり方などを分析・検討の要因として、議会として市民に対しきちんと説明し納得を得られる、当市にとって適正な議員定数を検討する。

2 議会のあり方について

議会に求められている主たる機能として当局の行政運営のチェック機能があるが、それに加えて、

市民ニーズの多様化が進んでおり行政の守備範囲も広がってきていること。また、地方分権の推進に伴い議会に求められている機能が変化してきていることから、議会自ら建設的な提言・提案を行う政策提言型の議会のあり方について検討する。

3 常任委員会の活性化について

現在、請願・陳情の審査が中心となっている常任委員会ですが、閉会中の審査を議決していることでもあり、所掌事務について閉会中の調査を行うなど常任委員会の活性化を検討する。

各種委員会や審議会から議員を引き上げたことでもあり、閉会中の調査による各種の情報収集や計画・事業内容の把握が議会審議及び議員個々の活動にも役立つものと考えます。

地方交付税制度 地方財政制度について

勉強会を開催

地方交付税について様々な議論がなされている状況から、地方交付税制度と厳しさを増す地方財政について、その制度と実際の運用、本市の財政への様々な影響について勉強会を開催しました。



勉強会は、会派の活動の拠点となる市役所四階にある会派室を会場に行われ、講師には松田財政課長をお願いし、地方交付税制度の現状と普通交付税が本年度は四十二億四千三百万で政府が交付すべき交付税額の不足を補うために一時的に起債を起こしてよいという臨時財政対策債の発行可能額をあわせて四十六億六千三百万円であり当初予算で見込んだ額の決定があったことや、交付税の伸び率がマイナス2.3%と県内他市に比べ影響が低かった要因など具体的な事例を課題に勉強会を進めました。

勉強会の中で、今後の交付税制度や合併市町村へ優遇されるとされている交付税についての質問や、現在進めようとしている陸前高田市行政改革プログラムとの関連についても質疑がなされました。この勉強会

を通して、地方交付税に多く依存する本市の財政構造、少ない自主財源の中でどのような市政運営を行うべきか、市政課題の解決方法はどのような形で進めるのが効率的であるかなど議論が交わされた勉強会でした。
※本年度の地方交付税は、盛岡市は△16.4%、大船渡市でも△10.3%と大変厳しい状況です。

黒崎仙峡温泉の 運営状況を視察

本年四月に開業し市内外からの入館客で賑わっている黒崎仙峡温泉を視察し、その運営状況と課題について視察を行いました。

入館者が一段落をする午後の四時から六時までという短い時間ではありましたが、菊池商工観光課長と村上所長さんから八月のお盆過ぎま

での入れ込み状況と運営に当たった課題などの説明を受けた後、意見交換を行いました。

入館者は、当初計画を上回る数字で推移している状況であることや、五月の連休には想定以上の入館者があり苦情が出たことなども話され、会派員からは休憩室が狭いとの訴えがあることや、団体客の利用を想定していない施設ではないか。また、案内看板やパンフレットの作成についても提言がありました。

その後、入館料を支払い温泉を体感してきました。



第二十一回全国自治体政策研究

交流会議・自治体学会へ参加

去る八月二十六・二十七日の二日間にわたって千葉市で開催された「第二十一回全国自治体政策交流会議・自治体学会」へ参加してきました。この会議は、地方自治を研究する者、地方自治に関わる者が年に一度、全国から集まり今置かれている問題や、地方自治のあり方などについて勉強と交流を目的にして開かれるものです。

今年は、千葉県総務部が主催事務局



となり「明日を生き残るために、闘う自治体」をメインタイトルに「危機に立ち向かい、時代のうねりをつくり出す」をサブテーマに幕張メッセを会場に開催され、全国から千二百人を越える参加者がありました。

初日の午前中は、堂本千葉県知事、北城日本IBM会長（経済同友会代表幹事）、森田東京大学公共政策大学院長の鼎談が行われ、午後は三分科会に分かれてのパネルディスカッションが開催され、夕方からは堂本知事をはじめとするパネラーの先生方や全国から参加した皆さんとの交流会が開催されました。

二日目は、自治体学会の総会に始まり、「財政難を乗り越える」、「個性化が輝くまちをつくる」をテーマとした二つのセミナー、午後は十に分かれての分科会が開催されました。多くのパネラーからは、生き抜くための独自の施策の紹介や、地方分権下における地方議会の役割などが紹介され、市当局が様々なタウンミーティングや座談会を開催し、住民の意識を政策に反映しているように、議会もまた積極的な活動が必要

との話もありました。分科会の後半は、参加者とパネラーとの意見交換や質疑にあてられ、活発な議論が交わされ時間をオーバーし午後五時まで行われました。

自分たちの町の実態と特徴を十分に理解し、次の世代に伝えるための基本施策をきちんと確立している市町村。生き残りのためにはオンリーワンのまちづくりであるが独りよがりではない、ある意味その道ではナンバーワンであることが必要とのことや、本市で行っている地元学を自然環境や史跡といったものだけではなく、人口構成や近隣市町村との比較といったことを含めて分析し、まちづくりの方向性を定めている市など様々なことを気づかせてくれたセミナーや分科会でした。

セミナーや分科会だけではなく、昼食時や休憩時間にもそこで様々な交流が行われ、私も栃木県や千葉県、京都府の議員さんなど多くの方々とも意見交換させていただきました。

多くの市町村の議員や職員が参加していたことに驚くとともに、通常の公務での視察とはまた違った意味で有意義な会であったと感じております。新星会では会派として法人会員に登録することが出来たので、今後様々な形でこのようなセミナーや研究会へ参加し、情報の収集と陸前高田のPRに努めたいと考えています。

ご意見をお聞かせください。

新星会では、会報「新星会」をはじめ、座談会や意見交換会など様々なことを計画しています。地区公民会、町内会、婦人会や数人の集会でもかまいませんので、お気軽にお声掛けください。どこへでもお邪魔いたします。

是非、市民の皆様の率直なご意見をお聞かせください。

◎連絡先

陸前高田市高田町字館の沖110

陸前高田市議会内「新星会」

電話 55-2111

または、会派員へご連絡いただければ幸いです。

編集後記

やっと創刊号を発行することが出来ました。

会派の考え方や活動報告、そして会派を構成する個々人の考え方や議会での活動を主眼に皆様と我々新星会の一人ひとりを結ぶ架け橋になれたらと思っています。

今後は、広域行政や産業振興など具体的なテーマを決めて考え方を皆様にお伝えできるように紙面づくりを心がけてゆきたいと考えております。定期号は九月と三月の定例会終了後に発行を予定しています。時せず臨時号も考えておりますので、ご愛読をお願いいたします。

【編